

補足説明

2011年11月30日

原子力発電・核燃料サイクル技術等
検討小委員会 座長

鈴木 達治郎

試算結果と原子力委員会報告

- 前回の策定会議での議論を踏まえて、特に損害額の試算を修正。固定費用と出力比例部分を分けて試算した。
- 保険料に基づく手法として、他産業や国際動向も参考に「相互扶助制度」の考え方で試算した。
- 原子力委員会として、エネルギー・環境会議コスト等検証委員会に対して、「試算結果は妥当」としたうえで、検討小委の留意事項を踏まえた留意事項を提示した。

試算結果の意味

- 核燃料サイクルの試算では、フロントエンドからバックエンドまで、廃棄物の地層処分、廃止措置のコストなどを含め、全てのコストを含んでいる。
- 「全量再処理モデル」「直接処分モデル」は、非現実的との見方もあるが、コストの幅を見ることや、「現状モデル」との差、どのコスト要因が重要かを知るうえで有効である。
- 事故リスクコストの試算では、総損害額が不確実な現状で、根拠が明確な数値のみで試算した。したがって「最大コスト」ではない。今後、損害額が上昇した場合のコストも試算できるように計算手法も明示した。

コスト検証委での議論

- 核燃料サイクルコストについては、割引率の意味、処分コストの不確実性、ウラン価格や再処理価格の不確実性等について、議論があった。
- 将来リスク対応費用については、事故確率と損害額の妥当性、期待値に基づく手法自体への疑問、保険料に基づく試算の妥当性などが議論となった。
- 検証委では、事故リスクコストについて、改めて集中議論する予定。

なお、透明性を担保するため、すべての元データ、エクセルシートなどをホームページ上で公開しているのご参照ください。

http://www.aec.go.jp/jicst/NC/tyoki/tyoki_hatsukaku.htm